



東北大学災害科学国際研究所

第24回東北大学災害科学研究拠点セミナー
第37回「災害と健康」学際研究推進セミナー
第4回ヒューマンレジリエンス重点研究領域セミナー

災害は女性の健康とその保持に どう影響を及ぼすか

～がん検診での事例を中心に～

新型コロナウイルス感染拡大と長期化は「災害」と位置付けられるものです。この問題は、数年単位での行動変容を社会に迫るもので、それはがん検診も例外ではありません。集団検診（車検診）は、「集団」であるが故に、感染拡大期、多くの地域で中止となりました。2020年の受診者数は前年比、約30%も減少し、未発見のがんが将来、進行がんで発見する事態が危惧されます（対がん協会報2021年）。地方の医療過疎を補う上で有益な集団検診も、今後は「行動変容」を余儀なくされると考えます。

このような事象は、2011年3月の東日本大震災の後にも起こりました。大震災前後の宮城県での子宮頸がん検診受診率を解析したところ、2011年に多くの地域で検診受診率の著しい減少が見られました。さらに津波被害が甚大だった地域では、それ以降、数年間、受診率が回復しない地域がありました（PLoS One.2020）。このことは今、危惧される、コロナを契機とした検診の見合わせ・手控えが、そのあとの受診習慣を、長期間、行動変容させる可能性を示唆します。

「災害」が女性の長期的な健康保持にどのような影響を及ぼすかを、がん検診などを中心に考えてみたいと思います。



東北大学災害科学国際研究所
災害産婦人科学分野 教授

伊藤 潔 先生

東北大・医学部卒業。東北大学産婦人科入局後、ジョージワシントン大学病理学講座客員研究員、東北大学医学部婦人科准教授を経て、2012年4月より現職。宮城県対がん協会細胞診センター所長（兼任）、日本臨床細胞学会理事、日本婦人科がん検診学会理事、ホルモンと癌研究会理事長、第61回日本臨床細胞学会秋期大会大会長。

2022年11月24日（木）
16:00～17:30

WEB開催
(ZOOM)

本セミナーは医学系研究科系統講義コース科目の授業として振替可能です

お申し込み・お問い合わせ

東北大学災害科学国際研究所
「災害と健康」プロジェクトユニット
<http://www.irides-pudh.med.tohoku.ac.jp>



指定国立大
災害科学 世界トップレベル研究拠点